

# ながま新聞

ながま新聞  
編集 新聞部員  
姫路市北条宮の町  
215番地  
TEL079-287-1025

## 日本中に春のいびきを!



わたしたちの「ながま新聞」も第三号を発行することとなりました。季節も冬の厳しさから抜け出し、梅が花を開き、続いて桜の花がほころぶ陽春を迎えようとしています。

私自身は、手の震えを克服して、何とか読んで貰える文字を書くようにとの努力目標を立てては居ますが、なかなか思うように進まず、春はまだ遠いといったところでは。なかまの皆さんも症状はそれぞれに異なっておられます。リのごとくであること推

察いたします。さて、最近、京都大学の研究グループで、ヒトのES細胞をつ

かったパーキンソン病のサルでの実験で、殆ど動けなかった状態から歩けるまでに改善させた、との報道がありました。同大学の他の研究グループでは、既にiPS細胞でもサルの脳への移植実験が行われていて、「さらに安全性を高め、早ければ三年後には臨床研究を開始したい」と計画されているそうです。まさにパーキンソン病をはじめとする、わたしたち神経難病の仲間にとっては、明るい春の兆しではないでしょうか。

ところで、「この新聞の題名「ながま」を『広辞苑』で探ってみました。「とも」に事をする人、同じ仕事をする人、また、「その集まり」とありました。

つい先日、あの東日本大震災から一年目を迎えました。映像などで見る惨状は、被災地の方々が進もうとされる勢いを阻害しているように見えます。

山積の瓦礫や海水を被ったままの土地などを見るたびに思うことは、これらの除去、整地のために優れた日本の英知を集めて、速やかに処理されることを願って止まないということですね。

このことは、日本国中が仲間意識に徹して、今一度「がんばろう日本!」の声を大にすることによって、その成果が前進し、被災地の方々に、幸福をもたらすでありますように。

そして、このことが近い将来日本国中一斉に春の花を咲かせることにつながるのではないのでしょうか。

長谷川 和宏



写真、川柳：岩佐 雅展



### ティータイトム

春よ来い、早く来い……。

春の歩幅は大きくなったり止まったり。でも春はそこまで来ている。もう暫くの辛抱だ。

あけびの仲間についても同じ思いだ。

この間、奈良の方に入院中の三好さんから病院での発声練習中のCDが届いた。一人で頑張っておられるのは大変だろうと仲間から「早く帰ってきてね。みんな待ってるよ」と、思い思いの言葉や歌声をCDに拭き込んで送った。したら早速に病院側から「あけびの皆さんの暖かいご友情に感謝し、一緒にもらい泣きした」と、添え書き付きで三好さんの現在の特訓状況をビデオテープに収録されて送られてきた。本当に心の繋がりが出来て嬉しい。

この様な輪の拡がり、明るい春の兆しをたくさん呼び込んで欲しいものだ。これを企画されたスタッフの方にこの欄を借りてお礼を申し上げたい。

岩村 和雄



# 仲間の声



橋本幸子

先日、一月二十日 新年会&誕生会（二月生まれの人）利用者、職員、ボランティアの人（二十名）カラオケBOXに行きました。

職員さんがカラオケBOXを探し回ってくださったそうです。色々とお世話になり、ありがとうございました。皆さん個性のある歌、デュエット曲、合唱したり大きな声で唄われました。

提案ですが、曜日別に分けて皆さん一緒に行かれたらどうでしょうか。楽しいことは分け合いましょうね。一日楽しかったです。ありがとうございました。



船越悦子

私にとってカラオケという言葉は縁のないものでした。なぜならオンチで、唄ったことがなかったからです。ただ、雰囲気は好きでしたから、電々公社を退職してから、せめて声だけでも出せるようになったらと、友達五人ほどでカラオケ喫茶へ行くようになりまし。それ以来カラオケにはまったという次第です。

木村正人

冬空の朝、久しぶりに旅に出かけ、姫路駅のエスカレーターに乗るとどこかで聞いた楽しそうな笑い声。見ると「あけび」のボランティアさん達でした。同じ車輻に乗り合わせたボランティアの皆さんは、まさに修学旅行さながらでした。そして、次の日、ボランティアさん達は昨日の旅行気

## 短歌・俳句・川柳

くじけても

明日は元気になるように

苦手なりハビリ

今日も励まん

英山 ちや子

さざんかの

紅かくすや 今朝の雪

菊池 武明

節分の

豆に追われし鬼も内

長谷川 和宏

チャイナドレスを着て変身

森 フミエ



## 「私」自慢

### 仲間との出会い

症状が進行しているからと、入院をすすめられ、二月一日からリハビリに励んでいます。

入院前に大阪のパーキンソン病のグループの方が入院されていると聞いていましたが、入院した翌朝に、ロビーでラジオ体操をしていた人たちに、挨拶をしますと、大阪の女性二名、男性一名と広島的女性一名でした。ほとんどの方がパーキンソン病友の会の役員さんです。広島の方は今年の広島全国大会交流会担当の平川さんで、「あけび」の木村美貴子さんとは大の仲良しとのこと。六月の交流会にはお目にかかれるのを楽しみにしていますと誘われました。また、大阪のしさんは支部リーダーをされ、苦労話や活動状況をお聞きしました。看護師長さんからの勧めでそのグループに入れていただいて、親睦を深め、楽しい病院生活を過ごしています。また、友の会の大西さんや英山さんとお会いしては励まし合っています。

森澤 博